

各居宅サービス担当者様

うえるびーいんど

平成29年 1月 7日

第318号

ウェルビーイング (well-being) 身体的にも精神的にも社会的にも良好に「その人にとってより良く生きていく」ということを意味する言葉です。
この紙面において、医療・介護に関する情報を
お伝えしていければと思っています。



多くのサービスが収益悪化 今年も厳しい1年に

2017年となりました。新しい総合事業の開始や介護職の処遇改善のための期中改定などが控えており、今年も介護事業者は頭を悩ませる1年となりそうです。

厚労省が12月28日に公表した、介護保険サービス事業者の経営概況調査の結果によると、全21種のサービスのうち16種のサービスで前年度より収益が悪化していることがわかりました。定期巡回・随時対応型サービスや小規模多機能、看護小規模多機能といった地域密着型サービスが、加算の拡充などの推進策を受けて好転しただけでした。

また、東京商工リサーチの調査によると、昨年に倒産した介護保険サービスの事業者は11月までの時点で97件にのぼっており、前年より21件増えています。12月も合わせた年間では、介護保険制度がスタートしてから初めて100件を超えるのが確実な情勢です。介護報酬の大幅な引き下げに加えて、慢性的な人手不足や競争の激化が影響しているとみられています。

そのしわ寄せとして、介護の現場で働く人のうち、約半数が残業した時間を正確に申告できていないという実態が明らかになりました。日本介護クラフトユニオンの調査では、47%の人が、「申告しづらい雰囲気があるから」「申告しても認めてもらえないから」といった理由で残業時間を正確に申告していなかったということです。人が減って業務量が増える中、仕事終了のタイムカードを押してから残業している現状がうかがえます。

そうした中、今年前半に「3割負担導入」の法案が成立すれば、利用者の中には、将来的な負担増に向けて身構える人も出てくるでしょう。サービス事業者にとっては収入は変わらないものの、利用者にとっては費用負担が増えることから、利用者が費用負担を減らすためにサービスの利用回数を減らすことで、サービス事業者の収益がさらに悪化することも考えられます。

年明け早々から、景気の悪い話で恐縮ですが、2018年度には医療と介護の同時改定があります。大きな改定になると言われていますので、それに対応できる準備をするためにも、2017年のうちから力を蓄えておかなければならないでしょう。

通所リハビリから訪問診療まで
在宅サービスのことは、何でもご相談下さい。
在宅で生活していく皆さんを応援します！



春日部厚生クリニック

TEL 754-4313
介護連携室 根岸